

学校教育目標 「つながろう やりぬこう」
重点目標 「すすんで やる子」

「ひと・もの・こと」にふれ、体験学習の大切さ

校長 望月 秀一

富士山に雪が降り、その雄大な姿に、改めて富士市に住んでいることの良さを感じた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。校庭の木々も色づき始め、秋の深まりを感じます。

今月は、社会科見学や校外学習の場で、「ひと・もの・こと」にふれ、体験学習を通して、学びを自分ごととして捉えられるようになり、より深い学び(確かな学び)になっています。

1年生は、広見公園へ「秋みつけ」に行き、自然観察会の方から自然とふれあうことの楽しさを教えていただきました。2年生は、これからまちたんけん「常願寺さん」に行きます。5年生は食品会社や放送関係の見学など、働く人々の様子を間近にみて、努力や工夫する姿を学ぶことができました。学校の外に出て、様々な人々と接し、そこにあるものにふれ、そのことを自分の生活や学習に生かした活動は、本物のもつ迫力や魅力を感じ取ることができ、子どもたちにとって貴重な学びの場になります。

6年生は、歴史学習として、久能山東照宮の見学と駿府城の発掘体験をしました。特に発掘体験では、豊臣秀吉に関わるものが出土したことが報道されたこともあり、子どもたちの関心は高く、仲間と一緒に発掘に真剣に取り組みました。もしかしたらここで発見されたものが、歴史を大きく変えることにもなり、活動にも熱が入りました。何人かの子どもたちが、当時のものを掘り当て目を輝かせていました。きっと、大人になって駿府城を訪れた時、この日のことを思い出すことでしょう。

3・4年生は、11月4日に迫った、神戸地区文化祭での新地名総選挙に向けて、総合学習の中で、いかに地域の人たちに投票してもらえるかを自分たちで考え、様々な広報活動を行ってきました。神戸橋で、新地名の書いた文字を掲げ訴えるグループ、吉原北中学校やまちづくりセンターなど、ポスターを掲示するグループ、商店でチラシを配布するグループ、仲間と一つの目的に向かって取り組む姿はとても頼もしく感じました。また、新地名のPRに向けて、オリジナルキャラクターも作成し、学校のホームページ (<http://www2.city.fuji.shizuoka.jp/~p-goudo/>) にも掲載しましたのでご覧ください。10月29日には、お聴きになった方もいらっしゃると思いますが、地元のラジオ局「ラジオf」にも生出演しました。インタビュー形式で、自分たちで考えた地名のことや地区文化祭の総選挙をPRしました。放送局の方々は、子どもたちが、少しの合間をみつけて、答え方の練習する一生懸命な姿に感動していました。

一つ一つの取り組みが、選挙で一票を入れてもらうための本物の活動になり、学校だけの学びに終わるのではなく、地域社会に参画する活動であることに大きな価値があります。「自分たちが考えた地名で新しい生活が始まるかもしれない。」という期待と喜び、正にこの体験学習こそが、子どもの心(魂)を揺さぶり、『生きる力』になっていきます。子どもたちが生まれ支えてもらっている神戸地区の将来を思い、真剣に考えた新地名の選挙があります。どうぞ地域の皆様、文化祭にご来場ください。



3年生『空かぐや』



4年生『遊然の里』

